

私のピアノ奮闘記

佐々木 真理

スタンダードジャズのピアノ演奏を聴くのが好きで、弾けたら楽しいだろうと、かねがね思っていました。

(こんな風に弾けるようになるまで、奏者がどれほど気の遠くなるような訓練をされたかは、この時点で考えてない)

ある日、猛烈に弾きたくなくて、楽譜を広げてみるも、あまりに毛深い楽譜に目眩が...

(毛深い楽譜→たくさんの音符が五線譜の上下左右に自由奔放にうじゃうじゃと跳び跳ねているように見える楽譜)

でも弾きたい。では習いに行こう！

というわけで、思いきって「ヤマハの大人の音楽教室」の門を叩き、お試しレッスンを受けてみました。

先生はどんな曲でも、ジャズ風にしたらこんな感じ、タンゴならこう、と、サラサラとアレンジしてひいてくださり、私のテンションは一気に成層圏を突き抜けて、火星に取り残されて途方にくれつつも、ジャガイモなんか育てて生き延びている宇宙飛行士を助けに行けそうな勢いでした。(参:映画「オデッセイ」)

とりあえず、小学校の間はピアノを習っていたので、その辺りからのスタートとなりました。

家のピアノの前でテキストを開いてみたところ、中には多少毛深い曲もありますが、ほとんど薄毛な楽譜で問題なく弾けそうです。なんだあ、弾ける弾けるう〜と、いい気になって楽しんでいました。

(しかしその後、この薄毛の楽譜に翻弄させられるとは、この時露ほども思っていなかったのです。)

待ちに待ったレッスン第1日目、いきなり発表会のお誘い。

当日まで5ヶ月。

弾きたい一心のポジティブ頭が「こういうことがないと上達しない！」と私の心を叱咤激励したので、受けて立つ！と見栄を切りました。

水泳もそうですが、大会という目標があるから上達する！という確信はありました。

ここは、発表会に出ると決めて退路を断つべきなのです！

(退路を断てば後は修行が待っていることに気づけ、私！)

楽譜は薄毛なのでスラスラと指も動き、ドンドン進めそうな、か・ん・じ□
さて発表会があるので、曲を決めなければいけません。
始めたばかりなので、テキストの初めから2番目のジブリの曲(風の通り道)か、5番
目のジャズ(A列車で行こう!)に絞りました。
(でもまだ2番目までしかレッスンは進んでいない)
弾ける弾けるう〜□(まだ前向き)

今まで踏んだことのなかった右のペダルの踏み方を教えてもらい、音が繋がり響き、
なんだか更に上手になった気分！

ここで、スマホに入れた録音機で自分の演奏を録音しようと思い立ちました。
いったいどんなに自分ってカッコイイのかなあ〜？ルンルン□□□

再生 ピツ……………あまりのショックに崩れ落ちる……………海よりも深く…………
下手すぎる…しかし何故？楽譜通りに弾いているのに。

そういえば昔、ヤマハのコンクールで金賞を取った小学1年生の演奏「きらきら星」を
聴いて、これは本当にあの「きらきら星」よね…と、そのあまりの上手さに愕然とした
のを思い出しました。
楽譜通りに弾けば良ってもものではないのです。

さあここから修業の始まりです□

「弾く→(録音した自分の演奏を)聴く」のほぼエンドレス状態の繰り返し。
「問題点を見つける→直す」
「上手な人の演奏を you tube で聴く」
繰り返し。繰り返し。繰り返し。繰り返し…。
気が付けば、1回の練習で軽く2時間は経っています。
この集中力をなぜ若いころ出せなかった?!、私。

そして未だに、繰り返し…

発表会まであと1ヶ月。
ああ、音符通りに弾いているのに、弾きすぎて気づかないうちに暗譜してしまっている

のに、ピアノの構造やペダルの仕組みも調べたのに、上手く弾けない□

まずは、リズムの練習。

メトロノームと一心同体。(今も)

タッチの練習。

卓上でもできる指の訓練。

楽譜通りに弾かないことできれいに聴こえる工夫。

などなど。

先生に、肩に力が入りすぎているとご指導頂きました。

更に先生が一言、「佐々木さん、スポーツされてますね？」。

お見透しです。

でも嬉しい！水泳のおかげで、体が出来てきたんだ！男前になってきた！

あとは、肩の力を抜けば良いのです。(でも抜けない)

もしかして、私、感情表現できない人間？

左脳人間？

子供の頃これだけ熱中して頑張っていたら、今頃相当上手にできてるだろうにと思いつつ、でも人生そんなものだし、逆に、やってなかったからこそ今充実して楽しいのだと心から感じています。

ああ、楽しい。

水泳と同じで、出来ないことが練習によって出来ていく快感。

さて、発表会までに何とか形になるのでしょうか。

さ、また頑張ろっと。